

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ 2F		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々癒やしの心で接しております。みなさんが穏やかに過ごせる雰囲気作りを心がけています。ウッドデッキがあり過ごしやすい季節の際は、お茶したり歌を唄ったりとのんびり過ごしております。又外出、外食の際は、利用者様の食べたい物、言えることが出来ない方はご家族から昔好んで食べられていた物やお店を聞きお連れしています。ご家族の方も一緒に行かれる事もあります。誕生日会の時はケーキは利用者様の手作りでお祝いしています、行事にはご家族の参加が沢山あります。月1回は気功の先生が来られ参加しています。リハビリが必要な方や希望がある時は、通いかれ、生活の中でもリハビリの工夫に努めています、足のマッサージなどを取り入れ利用者の方に触れる事を大事にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は道路沿いで利便性がよく、海の風景を楽しめる場所にある。職員は介護理念「癒やし」を根幹に「利用者の心と肉体に癒しを提供する」という思いで支援に取り組んでいる。支援の基本となる利用者のしたいことや、生活歴を重視した暮らし方を本人の立場になり、引き出すケアを目指している。音楽療法を取り入れ、癒しの場を提供している。介護の仕事が思い切り出来る環境であるため、職員の定着率が高く、職員は笑顔を決して絶やさず、事業所内の雰囲気も穏やかで、利用者が心地よく生活できていることが伝わってくる。祭りへの参加や近隣の学生など地域との関係も良好である。行事や運営推進会議の家族への参加も多く、協力的であり、家族との信頼関係が厚い。家族との絆が途切れることなく、利用者の安心・安全な生活が守られている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「癒やし」理念を毎月1回職員会議にて読み上げ常に頭に置き介護の実践につなげています	理念は玄関とリビングに掲示し、毎月会議の前に唱和している。入社時、代表者が新人職員へ理念「癒やし」に込めた思いを説明している。理念を根幹に据え、利用者の立場になり、思いを引き出せるケアに努めている。利用者それぞれが、安らかな普通の生活が過ごせる支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣行事のガス祭り参加や、近隣の学生の職場体験・吹奏楽部の演奏などの訪問があります。部活動の練習の途中でトイレをよく仮に來たりと出入りしやすい環境に心がけます	事業所は、自治会に加入している。中学生の職場体験受入れだけでなく、普段から学生が気軽に立ち寄り関係性を築いている。毎年地域の祭りを利用者と見学している他、今年度は地域住民を敬老会に招いており、地域との交流が一層活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のガス祭りにてなぎさコーナーを設け介護用品の説明や、介護相談をしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにて、ご利用様の写真を見ただけの様子を伝えていきます。ご家族の参加が多いので要望や意見を聞き改善に努めています	年6回、規程のメンバーで開催している。利用者の日常生活を写真やビデオで報告することが、参加者の会議に参加することの楽しみとなっており、毎回、多数の家族の参加に結びついている。欠席者には議事録を送付している。リフト浴の導入等、参加者の意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の方に参加していただきサービスの取り組みなど見ていただいています。認知症サポーターの研修生の見学の依頼も受け意見交換もしています	更新手続には窓口へ出向き、不明な点があれば電話で問い合わせしている。職員は、市主催の研修に参加している。地域包括支援センターの依頼で、地域高齢者を対象とした催しに職員が参加している。また、介護相談員を年1回受入れるなど、行政との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より目が離せないご利用者様は職員同士の声かけにて行動を見守っています	身体拘束の外部研修を受講している。また、身体拘束委員会を設置し、全職員の内部研修を通じて、拘束のないケアを共有している。現場では職員が互いに言葉遣いを注意し合える関係である。日中は施錠することなく、利用者の行動を見守り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて意見交換の場を作っています。外部の研修への参加、ご家族の方より気づきをできる限り確認しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用している方もいます。研修に参加したりしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定や変更があればその都度説明し理解していただいています、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開き外部者の意見やご家族からの意見交換ができる、その後職員会議にて職員へも伝達しています	契約時に、意見や相談窓口の説明を行い、ホーム便りと運営推進会議議事録を家族へ郵送している。運営推進会議には多くの家族が参加し、発言している。また、家族は訪問時に、普段から職員へ相談しており、職員は得た情報を連絡ノートや職員会議時に共有している。家族のアドバイスや火災訓練に取り入れている例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の話しを聞き意見を出し合っています	毎月の職員会議で、職員は意見、提案している。代表者は、会議の内容を把握しており、年1回、職員と個人面談している。職員の意見から、利用者毎の24時間シートを作成したり、認知症ケアなど研修内容を決めている。職員の希望を反映してシフトを作成しているなど、職員の意見が至るところで反映されていることが確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給を使っていただいたり、外部研修の際は日勤扱いにして対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・職場内での研修に参加してもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流があります。お互いの季節の行事に職員・利用者様に参加したり、招待してりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの身体・精神的な行動や反応を感じる事で不安な気持ちに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリの要望がある方は病院でのリハビリに通っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知・身体的状態に合わせた声かけ手作業・作業をしています。お茶の葉つめや洗濯物干し準備を出来る事の仕分けをしたり、シーツ交換なども一緒にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会・季節の行事にご家族の参加を呼びかけ花見・外食の時も一緒に過ごしていただいたりしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と話し可能な限り関係をもつ事が出来るように努めている、よ行かれていた食事処や外出先へも情報があればお連れします	職員は、家族や本人から得た情報から、生活歴をまとめており、連絡ノートや申し送り時にも共有している。馴染みの関係継続を重視しており、家族や友人の訪問や外出は自由である。また、馴染みの場所をドライブコースに入れたり、風習に倣って神社に出掛けている。家族と法事に出掛ける場合は、状況に応じて職員が送迎など支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性は特に他の方とのコミュニケーションが難しい為、共通共感できるような事を持ち出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方からの紹介などがあり関係も続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんの好きなこと、歌を聴いたり、時代劇がすきで見ることが出来るようであれば希望に添った物を提供し生活の楽しみいしていただくよう心がけています	職員は、利用者に接するときには必ず声を掛けている。入浴準備や居室整頓など、利用者と一緒に行動し、1対1の体制で思いを話せる雰囲気を作っている。また、表情から思いを汲んでおり、得た情報は、個人記録に記載している。新聞購読や日記を継続することや、できる事は自分でしたいという利用者の思いを把握し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の本人の身体状況とバイタルサインをスタッフで申し送り注意点を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状をご家族へ報告し細やかな情報を提供してもらい必要な支援を考えている	介護計画は家族の希望を聞き、月1回の職員会議で見直し作成している。長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標を設定している。解決すべき課題及び本人の可能なことを強化することで自立が促進される状況を目標に作成している。ただし、本人の意向が毎回、同じ記載となっている。	利用者の意向を聞き取り、支援計画に反映することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの日々の情報を申し送り変化にも敏感に対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科の活用、利用者様ご家族の要望に対応できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気功教室の先生が来られたり、慰問があり楽しみが少しでも持てるよう心がけています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医でとの要望があればかかりつけ医にお連れします	かかりつけ医を継続受診しており、FAXで毎日主治医と情報共有したり、往診などそれぞれ対応している。受診内容は、家族へ報告し、職員は連絡ノートで情報を共有している。事業所は緊急ファイルを整備しており、急変・緊急時には医療連携している病院に連絡、夜間は担当医の指示に従い救急搬送を行うなどのシステムを構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間大久保病院へ異常があれば報告しています。受診や他の病院への受診、様子観察などの指示があります。夜間の報告へは、次の日の朝から病院の方から連絡があり再度報告しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会をし状態を医療スタッフに聞き、ご家族との話しあいの中で早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になるまではホームで対応しています。	契約時、「重度化した場合の対応にかかる指針」を基に、看取りは行わない旨を説明し、家族に同意を得ている。利用者の状況に応じ、主治医と家族との話し合いの場を設けている。職員は医療行為が必要となる間際まで、できる限りホームで暮らせるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を毎年受けており緊急時対応についても指導していただいております、又かかりつけ医へ連絡し指示を受け対応しております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練の実施、日中、夜間帯の火災想を想定し実施しております。又月に1回消防計画のもと防火管理者が職員への指導の実施をしております	毎月、通報・避難・消火訓練を行う他、年2回消防署立会いで夜間想定総合訓練を実施している。近隣住民も訓練に参加し、避難後の見守り支援も依頼している。自然災害のマニュアルを作成し、地震や津波を想定した訓練を行っている。食料や水の備蓄や持ち出し備品も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の従来の生活習慣を大事にしている、誇りを尊重する事により、利用者様の方が自分らしく生活できるような対応や声かけを心がけています	敬語で話し掛けたり、「さん」付けで呼ぶなど職員は利用者を人生の先輩として接している。失禁時などは居室へさりげなく誘導し、羞恥心に配慮して対応している。同性介助にも対応している。利用者情報は各ユニットの所定の場所に保管しており、職員は守秘義務について誓約書を提出している。家族には写真掲載の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動制限をするのではなく側にて様子を見守り、答えやすい言葉使いをし本人さんの意思を確かめる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース似合わせ生活しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重ね着をされたり、汚れに気づいた時は随時声かけし着替え身だしなみに注意している。行事があるときはその場にあった衣服を用意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることや危険性がないものを手伝っていただく、その方にあった、切る。皮むきなどをしている	調理職員が、利用者の嗜好や旬の食材を取り入れた献立を作成し、刻みやミキサー等、咀嚼に合わせた盛付けで提供している。下膳の手伝いや干し柿作りなど、利用者ができることを引き出す場面を作っている。誕生会や季節行事に合わせた献立のほか、利用者の希望を聞き、外食や出前を取るなど食事を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量の把握をし摂取できる内容や時間を考えながら職員で情報の共有に努めています。水やお茶が苦手な方にはジュースやコーヒーココアなど準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生と本人の状態、注意点を聞いたり情報をもらいケアに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、早めにトイレ誘導するなるべく日中は布パンツ使用していただき、夜間のみリハビリパンツやテープ式オムツの使用など工夫をしている	日中はトイレでの座位排泄を支援している。職員は、利用者毎に排泄パターンチェック表を作成し、利用者の排泄状況を把握している。毎月カンファレンスで介助内容を検討している。時間や仕草からトイレ誘導することで、失禁の減少に繋がっている。また、パッド類や布パンツ使用を検討し、利用者の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別的に飲み物を飲んだりされている方もいます。日常生活の中で体動など体を動かす機会をつくったり、トイレ誘導し排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で一人一人時間は十分にとっております。又その方に必要な時は入浴日以外でも入られています。順番は本人さんの希望や状態をみながら誘導しています	週3回入浴を支援している。入浴拒否時は、無理強いせず、声掛けを替えたり、次の日に振り替え支援している。一般浴では入浴介助が困難になった利用者も、リフト浴にて快適な入浴ができるよう整備している。利用者は好みの石鹸類の使用や入浴後のボディークリーム等、自由に使用し、楽しい入浴にて清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人さの負担にならないよう、日中ソファやベットにて休息出来る時間を作っています。入床や起床はご本人さんに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の介護日誌にお薬リストをつけてその都度確認できるようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りにて把握します		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・雑誌等提供し楽しみにされている。洗濯たたみや生活の中での役割りや、外食では好きな物を食べに行くように心がけています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩に行ったり、受診後、ドライブに行く。外食行事は食べたいものを聞きお連れしている。外食・花見にはご家族の参加もありますホーム内運動会もご家族の参加があり、昼食時も運動会の雰囲気をつくっています	利用者は職員とホーム周辺を散歩する他、ベランダで、季節を楽しみながらおやつ時間を過ごしたり、体操するなど外気浴を楽しんでいる。近くの図書館や買い物、ドライブなど個別に声を掛け、外出支援している。花見や初詣の他、地区にあるグループホームの行事に出掛けている。利用者は大勢での外出機会を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やドライブなどは、ご本人さんの好きな物を買っていただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの希望があるときは随時対応しております。毎年年賀状をご家族やお孫さんの出しています。字が書けない方はシールやスタンプなどで工夫をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー・生花・壁飾りで季節感を感じるようにしている	リビングには利用者が寛げるようテーブルや椅子を配置している。行事の写真や花を飾り季節を感じる趣向や、利用者が楽しめるよう工夫している。天気の良い日はウッドデッキで日光浴を楽しむ利用者もいる。毎日午前中に職員が清掃しており、換気・温度調節も適宜確認し、落ち着ける環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてすごしたり、廊下の写真を眺めたりし、ゆっくり過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家族からのプレゼントなどを飾っています。好みの小物や雑誌も持ってこられています	利用者が自宅と同じように、ゆっくり寛ぐことが出来るよう、居室への持ち込み制限はない。筆筒、仏壇、家族写真等の馴染みの品、思い出の品を持ち込むなど、個性豊かな居室である。職員が清掃、換気を行い、濡れタオルで乾燥を防ぐなど湿度管理にも気を付け、いつでも心地よく快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室への表示、他の方の入室防止の為名前表示の工夫などしています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ 1F		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の癒やしの心で接しております。皆さんが穏やかに過ごせるような雰囲気を感じています。外出や外食の際は職員全員で楽しく好きな物を食べられるような計画を立てたいです。ご家族の方も一緒に参加されることがあります。日中は、リハビリや痛みの軽減にはホットパックなど取り入れています。干し柿を作ったり、つわをむいたり季節を感じてもらっています。月1回は、気功教室があり参加しています。季節の行事ではほとんどのご家族が参加され利用者様も楽しみにされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「癒やし」理念を毎月1回職員会議にて読み上げ常に頭に置き介護の実践につなげています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣行事のガス祭り参加や、近隣の学生の職場体験・吹奏楽部の演奏などの訪問があります。部活動の練習の途中でトイレをよく仮に来たりと出入りしやすい環境に心がけます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のガス祭りにてなぎさコーナーを設け介護用品の説明や、介護相談をしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにて、ご利用者様の写真を見ていただき様子を伝えています。ご家族の参加が多いので要望や意見を聞き改善に努めています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の方に参加していただきサービスの取り組みなど見ていただいています。認知症サポーターの研修生の見学の依頼も受け意見交換もしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より目が離せないご利用者様は職員同士の声かけにて行動を見守っています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて意見交換の場を作っています。外部の研修への参加、ご家族の方より気づきをできる限り確認しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用している方もいます。研修に参加したりしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定や変更があればその都度説明し理解していただいています、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開き外部者の意見やご家族からの意見交換ができる、その後職員会議にて職員へも伝達しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の話しを聞き意見を出し合っています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給を使っていただいたり、外部研修の際は日勤扱いにして対応しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・職場内での研修に参加してもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流があります。お互いの季節の行事に職員・利用者様が参加したり、招待してりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの身体・精神的な行動や反応を感じる事で不安な気持ちに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリの要望がある方は病院でのリハビリに通っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知・身体的状態に合わせた声かけ手作業・作業をしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会・季節の行事にご家族の参加を呼びかけ花見・外食の時も一緒に過ごしていただいたりしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と話し可能な限り関係をもつ事が出来るように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性は特に他の方とのコミュニケーションが難しい為、共通共感できるような事を持ち出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方からの紹介などがあり関係も続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さの好きなこと、歌を聴いたり、時代劇がすきで見ることが出来るようであれば希望に添った物を提供し生活の楽しみいしていただくよう心がけています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新聞を読む、読書を趣味とされている方には提供しサービスに努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の本人の身体状況とバイタルサインをスタッフで申し送り注意点を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状をご家族へ報告し細やかな情報を提供してもらい必要な支援を考えている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの日々の情報を申し送り変化にも敏感に対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科の活用、利用者様ご家族の要望に対応できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気功教室の先生が来られたり、慰問があり楽しみが少しでも持てるよう心がけています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医でとの要望があればかかりつけ医にお連れします		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間大久保病院へ異常があれば報告しています。受診や他の病院への受診、様子観察などの指示があります。夜間の報告へは、次の日の朝から病院の方から連絡があり再度報告しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会をし状態を医療スタッフに聞き、ご家族との話しあいの中で早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になるまではホームで対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を毎年受けており緊急時対応についても指導していただいております、又かかりつけ医へ連絡し指示を受け対応しております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練の実施、日中、夜間帯の火災想を想定し実施しております。又月に1回消防計画のもと防火管理者が職員への指導の実施をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の従来の生活習慣を大事にしている、誇りを尊重する事により、利用者の方が自分らしく生活できるような対応や声かけを心がけています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動制限をするのではなく側にて様子を見守り、答えやすい言葉使いをし本人さんの意思を確かめる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース似合わせ生活しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重ね着をされたり、汚れに気づいた時は随時声かけし着替え身だしなみに注意している。行事があるときはその場にあった衣服を用意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることや危険性がないものを手伝っていただく、その方にあった、切る。皮むきなどをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量の把握をし摂取できる内容や時間を考えながら職員で情報の共有に努めています。水やお茶が苦手な方にはジュースやコーヒーココアなど準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生と本人の状態、注意点を聞いたり情報をもらいケアに生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がない人には声かけ、トイレ誘導をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し医師と相談し、水分補給・運動・服薬にて調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で一人一人時間は十分にとっております。又その方に必要な時は入浴日以外でも入られています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息をとりたいと希望されている方は随時休んでもらっています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の介護日誌にお薬リストをつけており目を通せるようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りにて把握しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・雑誌等提供し楽しみにされている。洗濯たたみや生活の中での役割りや、外食では好きな物を食べに行くように心がけています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や外出の機会には出来るだけ希望を取り入れている、外食にはご家族も一緒に来ることもあります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やドライブなどは、ご本人さんの好きな物を買っていただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの希望があるときは随時対応しております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー・生花・壁飾りで季節感を感じるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて同じ場所で気のあった方が日中すごしている、自分の場所と決められつつがられている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より椅子やテーブル・タンスを持ってこられています。家族の写真や家族からのプレゼントなどを飾っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス・テーブルをご自分の使いやすいように置くことで、出来ることへの生活が送れている		